

まつぼっくり



学校教育目標「主体的に学び合い、達成の喜びを自信に変え、ふるさとを誇りに思う児童の育成」

「楽しい」「おもしろい」

先日の授業中、全クラスの教室にいつものように入りました。授業に意欲的に参加している様子がかげえました。4年生の教室で子どもたちが言っていたのですが、「おもしろい」「楽しい」と。私がそのことを言っていた3人の子に「何がおもしろいの？」と聞いてみると、「算数の割り算の筆算がわかる・できるようになると楽しいです、おもしろいです！」と返事が返ってきました。

私の考えになりますが、教師の大きな役目として児童生徒の学力向上があります。そして、その核になるものが基礎基本を教え込むことでもあります。それも含めて

スポーツテスト用紙記入



児童生徒に「勉強っておもしろい・楽しい」と思わせることだと考えています。これまでの教師生活36年の中で担任を20年してきました。日々の授業や部活動、1日に7時間授業をするようなものです。その中で、私が授業者・部活の指導者として持ち続けたのが、児童生徒に「つまらん」「おもしろくない」「きちー」「たいくつー」などと思わせないことでした。「楽しい・おもしろい・もっとしたい・きつかったけど何か良かった」と感じさせたくて、授業や

部活動の指導に当たってきました。もちろん毎日毎時間は無理です。教材研究の時間・部活指導のメニューの検討の時間は限られています。物理的に無理でした。だから1日1時間でも、週に数時間でもそのような授業ができるようにと思っていました。そのような授業づくり、部活動の指導ができるようになると、私も楽しくなります。

教師の授業力向上や児童の学力向上は、「楽しい」と思うこと、思わせることがとても大切だと思います。この「楽しい」が、「もっとやってみたい」「もっとできるようになりたい」となり、自主的主体的に教材研究や学習に向かっていくことにつながると思っています。やらされる学習ではなく自分からやりたい学習になったらしめたものです。周りが言わずとも、教員は自ら教材研究、子どもも自ら予習・復習をするようになります。そして、学力向上につながります。ですから、教師は教えることだけではなく、児童生徒の知的好奇心をくすぶる工夫やわかることできるようになることの楽しさ・おもしろさを子どもたちから引き出すことがとても大切だと思っています。

今年度も主体的に学ぶ教師集団、主体的に学習に向かう児童集団を目指します。

